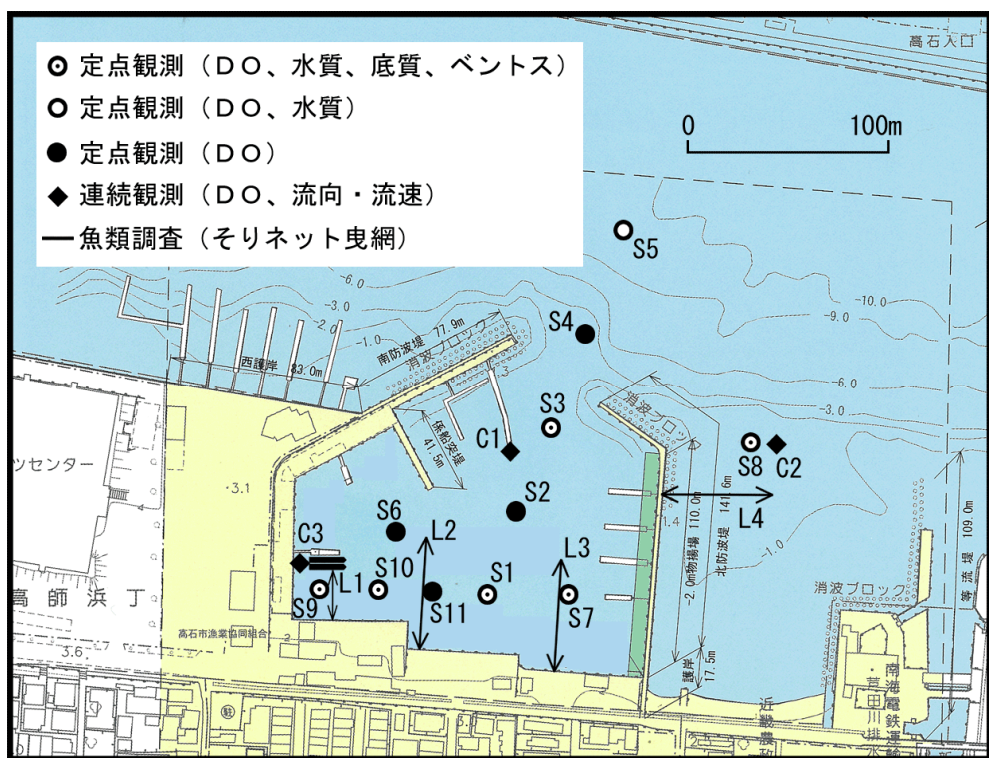


5 想定している試験時期・期間	月	予定または見込み
	07 年 6 月	技術実証委員会 実証試験計画の作成
	7 月	実証試験実施の調整・準備 実証試験に着手
	8 月	
	9 月	
	10 月	技術実証委員会
	11 月	実証試験の終了
	12 月	
	08 年 1 月	技術実証委員会
	2 月	実証試験結果報告書の作成
	3 月	



調査定点図

資料３：技術実証委員会での検討状況

委員の構成 (○：委員長)	○上嶋 英機（広島工業大学環境学部 教授） 亀井 誠（大阪府環境農林水産部水産課 課長補佐） 中野 仁（大阪府立公衆衛生研究所 主任研究員） 樋川 昇（高石市漁業協同組合 代表理事組合長） 森村 潔（大阪府立産業技術総合研究所 技術普及課長） 矢持 進（大阪市立大学大学院工学研究科 教授）
本技術及び計画骨子に対する委員の見解	○浮きや漂流はがきを使うなど、簡単な方法でよいから港内の流れ場を調べておいた方がよい。 ○目標値には幅を持たせた方が良いのではないかな。 ○ポンプやホースなどのメンテナンスをきちんとして噴出力を維持する必要がある。 ○10%程度でもDOが上昇すれば、青潮時など生物にとっては大変重要な効果がある。 ○1 ヶ月くらい運転したところで効果が見えにくい等の問題があれば各委員に報告して欲しい。 ○装置の設置位置等に関しては固定的に考えるのではなく、途中で色々変えられるようにした方がよい。